

NO	作品名	作品解説
2	夏服の少女たち	旧広島県立第一高等女学校一年生220人は学徒動員で市外の建物取り壊し作業に従事中被爆、全員が亡くなりました。この一年生が入学した昭和20年の日本は敗戦前で物資が極端に不足していました。せつかくあこがれの女学校に入学したものの制服も手に入りません。少女たちは母親のお古をほどいて夏用の制服を縫うことにしました。ようやく完成した夏服を着た喜びもつかの間、少女たちは8月6日を迎えます。
3	ヒロシマに一番電車が走った	かけがえのない家族や友を一瞬にして奪い、豊かな街を廃墟に変えてしまった原爆。この死の洗礼を受けた広島に、被爆からわずか3日後、路面電車が走り出した。傷つきながらも、必死に生きようとする人々を乗せ、少女車掌の心にも、いつしか生きる気力が芽生えていく。
4	太陽をなくした日	大人たちは戦争のための訓練に明け暮れているけれど、それは子どもたちには関係の無いこと。極々ありふれた子どもたちの日常が繰り返されてきた。そして、原爆が投下された朝も…。何も無ければ同じような時間が繰り返されるはずだった。
9	いわたくんちのおばあちゃん～ぼく、戦争せんけえね～	運動会の日、友達のいわたくんと競争して負けた寛太は少しふくれ気味だ。みんなで記念写真を撮ろうということになり、シャッターを押そうとすると、いわたくんちのおばあちゃんは「いやーよ」と手を振って断った。なぜ？昭和20年戦争中、おばあちゃん（ちづこさん）は女学生で疎開する前の記念に家族写真を撮影した。その数日後、広島に原爆が落とされた。ちづこさんは家族を失ったあとで家族写真を受け取る。それ以来家族と写真を撮らなくなったのだ。
10	はとよひろしまのそらを	中学生のアキラ少年は母親と暮らしており、伝書鳩の親子を離れた戦地へ行ったきりの父親に手紙を届けさせることを夢見ていました。8月6日の朝、原爆が落とされました。火の海の中、少年を探す鳩ミチル。少年と再会しましたが母親への手紙を託し息絶えます。家に戻ったが家の周りも火の海でした。冬になり、ミチルはおすの鳩と出会い、卵を産み力を合わせあたためますが、途中おす鳩は病気で死に、卵も1つしかかえりませんでした。子鳩を育てるミチルも同じ病に。たくさんの放射能を浴びていたのです。命と平和について考えます。
11	つるにのって	小学6年生の元気な少女・とも子は夏休みの課題「私の冒険」のため、広島原爆資料館をひとりで訪れます。展示から被爆した人々の思いを追体験したとも子は原爆の恐ろしさに圧倒されます。悲しく重い気持ちのまま向かった平和公園で、色とりどりの折り鶴と少女の像に目を奪われ、キャンディーの包み紙で鶴を折り始めたとも子。その折り鶴にフッと息を吹きかけると、なんと少女の像がとも子の前に舞い降り
12	平和の使者-青い目の人形物語	友情の人形が戦争の中で大人たちに「敵のスパイ」にされた。過酷な運命から人形を救おうとした子どもたちの物語。愛媛県内に青い目の人形5体が保存されています。 ①フランセッタ②ノーマ（明浜町・俵津小学校）③名前不明（明浜町・狩江小学校）④ベティ・ジェーン（八幡浜市・神山小学校）⑤ブルー（今治市宮窪町四阪島・住友金属鉱山別子事務所）